

産業別四半期見通し調査結果 (2023年1～3月期見通し)

■長野県産業天気図

◇2022年10～12月期の現況

- 全12業種中、「薄日(順調)」が3業種、「曇り(普通)」が6業種、「小雨(低調)」が3業種となった。

◇2023年1～3月期の見通し

- 「薄日(順調)」が3業種、「曇り(普通)」が6業種、「小雨(低調)」が3業種となった。方向感では、「横ばい」が8業種、「やや下降」が4業種となっている。

天気図記号	2022年 7～9月期現況	2022年 10～12月期現況	2023年 1～3月期見通し
晴れ(好調)	2 業種	0 業種	0 業種
薄日(順調)	1 業種	3 業種	3 業種
曇り(普通)	5 業種	6 業種	6 業種
小雨(低調)	4 業種	3 業種	3 業種
雨(不調)	0 業種	0 業種	0 業種

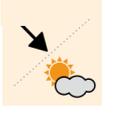
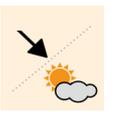
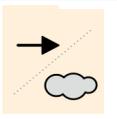
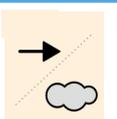
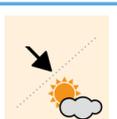
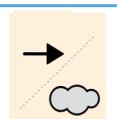
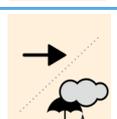
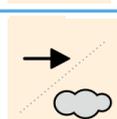
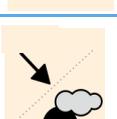
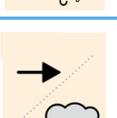
■1～3月期見通しのポイント

- 製造業、非製造業ともに天気図は変わらない見通し。



<産業別天気図一覧(12業種)>

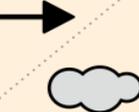
- 調査内容: 業界の「現況」、「見通し」は、県内の企業経営者が業界の景気をどうみているかについてアンケート調査とヒアリング調査をした結果を基に、当研究所が判断した。
- 調査期間: 2022年12月下旬～2023年1月上旬
- 調査回答企業: 県内主要企業12業種の117社

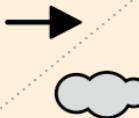
業種	前期 (22年7～9月期)	今期 (22年10～12月期)	来期 (23年1～3月期)
生産用機械			
電子部品・デバイス			
自動車部品			
飲料製造			
食料品製造			
機械器具卸			
大型小売			
自動車販売			
公共工事			
民間工事			
貨物			
観光			

生産用機械	自動車関連の受注は順調ながら、IT関連は減少
<p>● 現況</p> 	<p>生産用機械の受注は、スマートフォンやPC向けなどの半導体需要の低下からIT関連で減少したものの、自動車関連は海外向けを中心に順調だった。今後の受注は、国内外ともに自動車関連は順調を維持するものの、スマートフォン向けなどの半導体需要の低下からIT関連は減少を見込む。また、部品不足による機械の納期長期化が続くほか、原材料価格の上昇が収益を圧迫する見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 工作機械の受注は、東アジア、北米、欧州向けや国内向けともに、IT関連の減少が見込まれるものの、自動車関連は引き続き順調な見通し。 ● 半導体製造装置の受注は、半導体需要の低下から減少が見込まれる。

電子部品・デバイス	産業用の受注は順調だが、スマートフォン向けは減少
<p>● 現況</p> 	<p>電子部品の受注は、スマートフォン向けがやや低調だった。車載用は、ハイブリッド車(HV)やEV向けを中心に底堅かった。産業用の電子制御部品は各種製造装置向けを中心に好調だった。今後も、産業用の受注は順調なものの、スマートフォン向けは低調が続くほか、車載用も中国がやや弱含むとみられる。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● スマートフォン向けは、価格上昇に伴う完成品の需要減少により受注は低調な見通し。 ● 車載用は、国内はHVなどで需要は底堅いが、海外は中国の生産活動の鈍化によりやや弱含むと見込まれる。 ● 産業用の電子制御部品は、各種製造装置向けを中心に受注は順調な見込み。

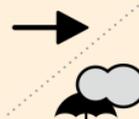
自動車部品	半導体不足の影響が続き、受注は低調な見通し
<p>● 現況</p> 	<p>半導体不足による完成車メーカーの生産が滞る状況が続き受注は低調だった。今後も、新車需要は堅調とみられるが車載用半導体の供給が追いつかず、受注は低水準で推移する見通し。また、電気料金等の上昇が収益を圧迫することが見込まれる。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内向けは、スポーツ用多目的車(SUV)を中心に新車の需要は強いものの、半導体不足による完成車メーカーの生産滞りが続くため、受注は低調な見通し。 ● 北米や中国向けは、半導体不足による生産の滞りにより低調な受注が続く見込み。東南アジア向けは、半導体不足の影響はあるものの、コロナ禍からの景気回復が進み受注は堅調な見通し。

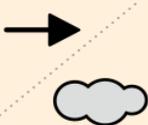
飲料製造	行動制限がなく受注は底堅いが、コストの高止まりが収益を圧迫
<p>● 現況</p> 	<p>飲料の需要は、新型コロナの行動制限がなく、全国旅行支援が開始されたこと等でビジネスや観光による人の移動が増加したことから、飲食店向けなどの業務用がやや持ち直した。今後も堅調な家庭用に加え、業務用の持ち直しが続くと思われ、飲料の受注は底堅い見通し。ただ、原材料等の上昇に対する価格転嫁は一部にとどまるとみられ、厳しい収益環境が続く。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 果汁飲料や清涼飲料水は、人の移動が増加すると予想され、受注は堅調な見込み。ただ、各種コストの上昇に対し価格転嫁は一部にとどまり、収益面では依然厳しい状況を見込む。 ● アルコール飲料は、新型コロナの行動制限がないことから、飲食店向けの需要持ち直しが見込まれる。ただ、宴会需要の回復はまだ先とみられ、回復力は乏しい見通し。

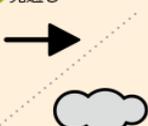
食料品製造	業務用需要が持ち直すものの、電気料金等のコストの上昇が収益を圧迫
<p>● 現況</p> 	<p>家庭用の需要は底堅く、宿泊施設や飲食店向けの業務用も、全国旅行支援の効果もあり持ち直した。ただ、原材料や電気料金等の上昇に対する価格転嫁は一部にとどまり、収益を圧迫した。今後は家庭用は底堅く、業務用も新型コロナの行動制限がないことから持ち直しが続く見込み。輸入原材料や電気料金等の価格は高止まりが予想されるが、価格転嫁は一部にとどまり、厳しい収益環境が続くとみられる。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 味噌は減塩や麴を使用した商品、ジャムや加工肉は化学調味料不使用の商品など、健康とおいしさを志向する商品を中心に需要は底堅いが、電気料金等のコスト上昇が収益を圧迫する見込み。

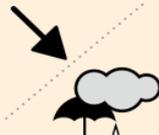
機械器具卸	自動車関連は順調ながら、半導体関連は減少を見込む
<p>● 現況</p> 	<p>機械需要は、半導体関連で減少したものの、自動車関連を中心に幅広い業種で設備投資がみられ、総じて順調だった。ただ、工作機械やFA機器などの一部機種の商品不足は続いた。今後の機械需要は、自動車関連ではコロナ禍で先送りされていた投資が動き始め順調を維持するものの、半導体関連は減少が見込まれる。また、商品不足は続く見込み。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 工作機械などの機械需要は、自動車向けは順調とみられるが、半導体製造装置向けは減少が見込まれる。制御機器や産業用ロボットなどのFA機器の需要は、省力化・自動化ニーズを背景に堅調な見込み。 ● 切削用工具類などの消耗品受注は、自動車関連を中心に底堅く推移する見通し。

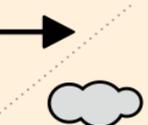
大型小売	食料品は底堅いものの、収益環境の厳しさは強まる見通し
<p>● 現況</p> 	<p>食料品の売り上げは、生鮮食品を中心に堅調だった。一方衣料品は、客数の減少などもあり鈍い動きとなった。生活必需品である食料品は今後も底堅い見込みだが、競合店間の価格競争や節約志向の強まりから、収益環境の厳しさは続く見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 百貨店は、人気の物産展などで食料品は堅調な見通し。一方、衣料品や宝飾品などは、物価高の影響により買い控えが続くとみられる。 ● スーパーは、食料品を中心に相次ぐ値上げで買上点数が減少しているものの、販売価格上昇に伴い売り上げは前年を上回るとみられ、総じて堅調な見込み。ただ、仕入価格が上昇しても競合店間の競争から価格転嫁は限定的とみられ、収益環境は今後も厳しい見通し。

自動車販売	納車遅れは解消せず、新車販売は低水準が続く
<p>● 現況</p> 	<p>新車販売は、半導体不足等の影響による納車遅れが徐々に緩和されたことで前年を上回ったが、例年と比較すると低水準にとどまった。中古車販売は下取り車等の減少で低水準だった。今後も納車遅れが続くとみられ、販売台数は低水準の見込み。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新車需要は、スポーツ用多目的車(SUV)や環境性能の高いハイブリッド車(HV)、軽自動車を中心に堅調なものの、納車遅れの影響で販売は低水準にとどまる見通し。 ● 中古車販売は、新車の納車遅れから需要は高いものの、下取り車の減少により流通量が少なく、例年を下回る見込み。 ● 輸入車販売は、SUVを中心に需要は底堅いが、納車遅れにより低水準の見込み。

公共工事	国土強靱化計画に伴う土木工事など安定した工事量を見込む
<p>● 現況</p> 	<p>三遠南信自動車道やリニア中央新幹線に関連した大型工事などにより、例年並みの工事量となった。今後も、国土強靱化計画に伴う土木工事に加え、リニア中央新幹線関連の大型工事や高速道路のメンテナンス・耐震補強工事などが引き続き見込まれ、安定した工事量となる見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国では、三遠南信自動車道や国土強靱化計画に伴う道路や河川の防災・減災工事などが見込まれ、工事量は堅調な見通し。 ● 県では、河川の砂防工事や道路の改修工事などにより例年並みの工事量を見込む。 ● 市町村では、道路や水道管の整備工事などを中心に、安定した工事量が見込まれる。

民間工事	製造業の工場建設などを中心に底堅い推移が見込まれる
<p>● 現況</p> 	<p>民間企業の建設投資は、製造業の工場などの新增設を中心に底堅かった。新築住宅は、資材価格の上昇による建設コストの増加などの影響から持家が減少したが、貸家や分譲の需要は底堅く着工戸数は増加した。今後、建築コストの高止まりは続くと思われるが、業界全体では製造業の工場建設などを中心に工事量は底堅い推移が見込まれる。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 民間企業の建設投資は、工場建設工事や南信地域におけるリニア関連の工場・店舗移転工事などが見込まれ、堅調が続く見通し。 ● 住宅関連は、建築コストの増加を受けて持家は伸び悩むことが予想されるが、分譲マンションやアパートなどの需要は底堅く、着工戸数は例年並みの水準を見込む。

貨物	工業製品の貨物量は引き続き低調、収益面も厳しい状況が続く
<p>● 現況</p> 	<p>全体の貨物量は前年並みの水準を確保したものの、燃料価格等の上昇に対する運賃への価格転嫁の鈍さやドライバー不足に伴う人件費の増加などから収益環境は厳しく、業況は低調だった。今後は、海外経済の鈍化による輸出の落ち込みや、食品、雑貨類などの値上げに伴う消費マインド低下による需要減などの影響で、貨物量は減少するとみられる。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生産用機械は、中国の生産活動や世界経済の鈍化により部材の輸入や完成品の出荷が落ち込み、貨物量も伸び悩む見通し。自動車部品は、半導体や部材不足の影響が続き、総じて弱い荷動きを見込む。 ● 食品関連や雑貨類は、商品の値上げに伴う需要減により貨物量の減少が見込まれる。

観光	インバウンド客と全国旅行支援により観光客数は前年を上回る見込み
<p>● 現況</p> 	<p>全国旅行支援による観光需要の高まりや、外国人観光客の個人旅行解禁によるインバウンド客の増加から、観光客数は前年を上回った。今後も、本格的なスキーシーズンを迎えてインバウンド客の増加が見込まれることに加え、全国旅行支援の効果もあり、観光客数は前年を上回る見込み。ただ、割引率の引き下げにより観光客数の増加幅は小幅にとどまる見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 旅客は、スキーシーズンを迎え、インバウンド客のスキー場への移動手段としての利用増加も見込まれるため、利用客数は増加する見通し。 ● 宿泊施設は、全国旅行支援の割引率引き下げにより政策効果が弱まるとみられ、利用客数は小幅な増加にとどまる見込み。